

◇ 頭のかたち外来

頭の変形は自然になおると乳児健診でいわれ、我が国であまり注目されてきませんでした。しかし昨今、乳児のうつ伏せ寝による突然死症候群が問題になり、日本や西欧ではこれらのトラブルを予防するために仰向け寝を推奨しました。これに伴い、頭部の頭位性変形（寝ぐせ変形）が問題となり、西欧ではいち早く、乳児期ヘルメット矯正治療が一般化し、日本でも矯正治療を行う医療機関が増えてきております。頭位性変形は有病率 46%で、治療対象となる中等症以上は 20%と報告され、潜在的なヘルメット矯正治療対象者が多くいるとされています。この頭位性変形は見た目の変形に加え、左右の耳の位置異常を伴うことがあります。この頭位性変形は見た目の変形に加え、左右の耳の位置異常を伴うことがあります。眼鏡等がずれ易くなり、成長発達後の咬合不正や歯並びの異常の原因となることが報告されています。当院には頭のかたちに精通した小児脳神経外科認定医が頭のかたち外来で対応しております。頭位性変形のヘルメット矯正治療は生後 6 ヶ月までの早期治療が有効です。乳児健診等で頭部変形を指摘されましたら、お気軽に当センターへご相談下さい。頭のかたち外来は完全予約制となっておりますので、下記の相談窓口にお電話にてご予約をお願いします。

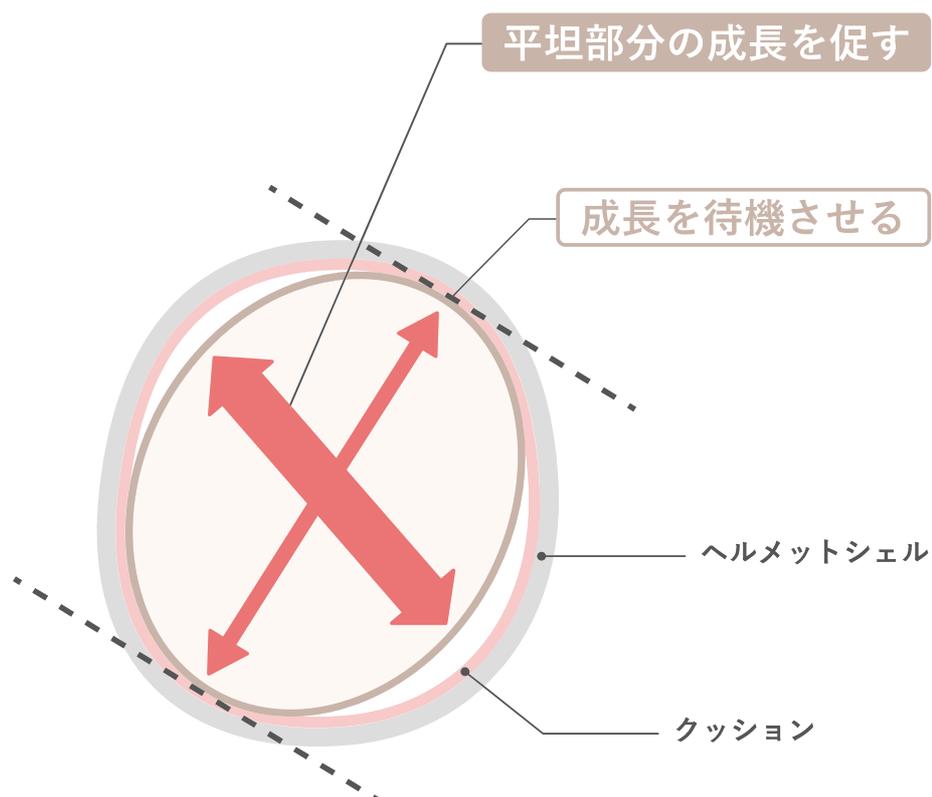
ご相談、ご予約のお電話先 :

鹿児島市立病院代表 脳神経外科外来 (頭のかたち外来) 099-230-7000

担当医 : 脳神経外科 大吉達樹

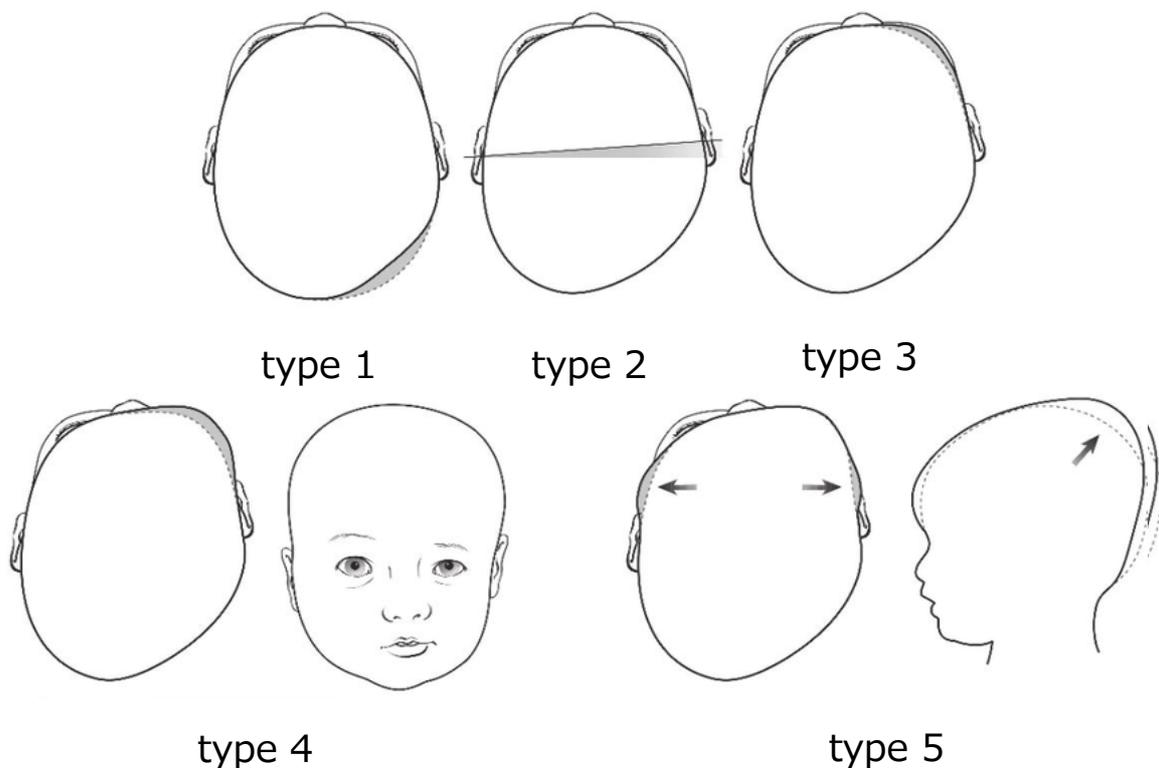
◇ ヘルメット治療の原理

ヘルメットの構造は外層のシェルと内層のクッションに分かれます。装着することで、ゆがみ部分に空間をつくり成長を促進させます。力を加えて頭蓋骨を変形させるわけではありません。



◇ 頭位性斜頭（変形）の重症度分類

後頭部の圧迫による平坦化から始まり、耳の位置の前方へのずれ、前頭部の突出、側頭部もしくは頭頂部の突出の順で頭蓋が変形します。後頭部が平坦になる（いわゆる絶壁頭）になる場合もあります。しかし中には頭蓋骨縫合早期癒合症という本来乳児期には開存している頭蓋骨の縫合が癒合してしまう病気や小頭症という脳の発達の遅れる病気のことがありますので、レントゲンや頭部 CT 検査が必要な場合があります。頭蓋骨縫合早期癒合症の場合は手術が必要な場合があります。下図はアルヘンタ（Argenta）分類で重症度を示しています。type 1 は自然に軽快することが多いですが、type 2 以上は変形が残る率が高く、ヘルメット適応とされています。



- type 1 後頭部の平坦化のみ
- type 2 type 1 に加え、耳の位置の左右差
- type 3 type 2 に加え、前額の前方突出
- type 4 type 3 に加え、頬の突出、顔面左右差
- type 5 type 4 に加え、側頭部もしくは頭頂部の突出

◇ ヘルメット治療の流れ

（保険診療）

頭のかたち外来にて頭部レントゲンや頭部 CT 検査を行い、病的な頭蓋変形を除外します。

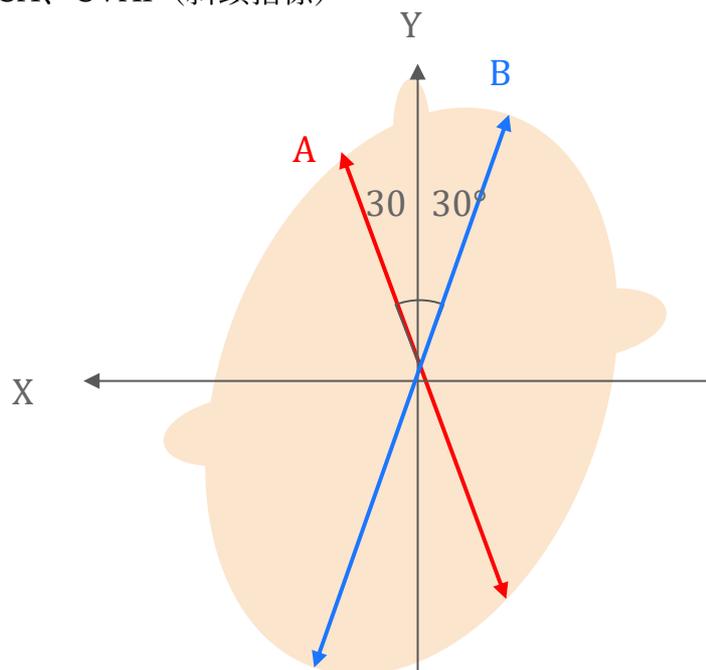
（自由診療）

保護者の方にてヘルメット矯正治療を希望され、自費診療に同意された場合に次回再診日から自由診療となります。初診時にヘルメット作成のために 3D カメラで頭部の 3 次元データを取得し、ヘルメットを作成します（10 日間程度）。ヘルメットができれば装着指導を行い、1 ヶ月おきに外来再診して、頭皮のチェックや装着具合を評価します。1 日 2 3 時間の連続装着を目標に 3～6 ヶ月後に治療終了し、再び 3D カメラで改善度を評価します。

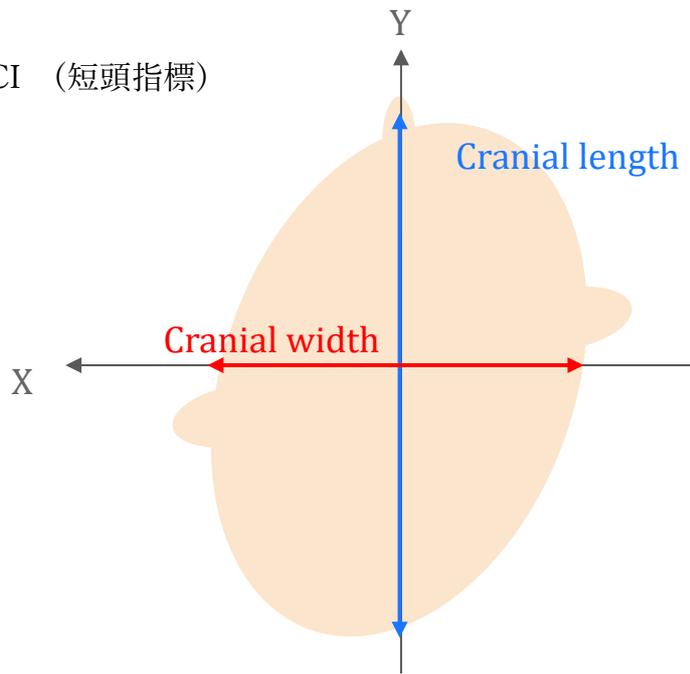
◇ ヘルメット矯正治療の適応

ヘルメット治療開始時期はおよそ生後3～6ヶ月で、それ以降は適応が乏しいと考えます。治療期間は開始が早い場合には早く終了します。およそ3～6ヶ月間、装着します。適応にはアルヘンタ分類やCA、CVAI、CI等の指標を参考に、ご両親と相談して決めます。

1. CA、CVAI（斜頭指標）



2. CI (短頭指標)



- CA : Cranial Asymmetry(mm) = 対角線 B-対角線 A(B>A)
- CVAI : Cranial Vault Asymmetry Index(%) = (対角線 B-対角線 A) / 対角線 A × 100(B>A)
- CI : Cephalic Index(%) = Cranial width / Cranial length × 100